

## 銭湯ペンキ絵師

## つれづれ日記

## 第16回

田中みずき (銭湯ペンキ絵師)

## インターネットと銭湯

近年、インターネットで銭湯の情報を広める動きが活発になっています。企業PRを銭湯で行いネット上で広める例や、銭湯の住所や開始時間などの情報をまとめたサイトやグーグルマップ、アプリが作られたり、銭湯に関するイベントなどをまとめたサイトがあったり、銭湯を訪れた方の記録がSNSやブログに書かれたりといった状況です。

2017年の今、2020年のオリンピックも意識しつつ、さらに多くの方に銭湯という場所を楽しんでいただくために、インターネットを使って様々な試みを行わなければならない時期がきているように思います。

## 身近に思える銭湯情報とは

ここで気をつけなければならないのは、インターネットを介することによって、銭湯が「懐かしいけれど異世界のもの」として消費されて終わることです。これを乗り越えるには、細やかな情報を提供することで実際に銭湯に行きやすくすることが必要でしょう。

オリンピックまであと少しのこの時期、銭湯に行きやすいアクセス方法や営業時間、近隣の駐車場の情報などを、日本語だけではなくいくつかの言語で紹介する媒体が必要です。現状で、日本語でのサイトやアプリは充実しつつありますが、2020年のオリンピックで来日する外国の方も利用しやすい多言語の情報はまだ圧倒的に足りていません。

オリンピックに関しては、定休日に有料でセレブリティ向けに銭湯を貸切にできる仕組みも有効でしょう。これは、通常時もイベントや撮影などに場所を貸し出すシステムとなり、銭湯に親しみを持っていただいたり、使用されていない時間の銭湯を活用することにもつながります。可能であれば、銭湯の営業後に掃除を手伝い、宿泊することができるという試みがあれば利用者はさらに旅を思い出深いものにすることができでしょう。この時、有料でも銭湯の建築の説明などが一緒に行えるとよさそうです。恐らく仕事量の増加で外部のサポートが必要になりますが、その費用対効果を考え



てもオリンピックまでは有効な仕組みとれます。

## 昔のシステムを活用して

また、常連客の高齢化に伴い、新たな若い世代へのアピールを行っていくことも急務です。銭湯でイベントを行うといったことももちろんよいのですが、むしろ各世代に向けて、銭湯だけではなく銭湯のある地域で寄り路できる場所を掲載することにより、実際に銭湯に行くという体験を楽しんでいただけるはずです。実は昔から銭湯内での会話で伝えられてきたものですが、現在ではインターネットで情報を拡散することで、地元以外から来た人をも取り込む仕組みになるでしょう。

かつて、銭湯には映画のポスターがあり、一緒に映画の割引券も置いてありました。この試み、現代でも形を変えれば行えそうです。番台で暗号を聞き、提携店舗で伝えらると特典サービスを受けられるといった試みも可能でしょう。銭湯の番台の方は実は地域のコンシェルジュ機能も果たしており、様々な情報をお持ちなので、インターネット+αの情報を口頭で伝えることも可能です。

近年、スーパーなどの店舗の会計をセルフレジで行うといったシステムも普及しつつあり、今後は無人化の店舗が増えていくといわれています。ここで、人と話せる銭湯という場は会話を求める人の需要に応え得るはずです。銭湯の方とお話してみると新しい情報を得られることも多く、最初の一言を話しかけるきっかけをインターネットで生み出すことで親しみを覚える方も増えるはずです。

常連客を大切にするのはもちろん、観光客など銭湯を日常的には使わない層の利用者に銭湯の利用を促すには、今後さらにインターネットを介して情報を開示していくことが重要になるでしょう。

プロフィール ● 1983年大阪生まれ。幼少時から東京在住。筑波大学付属高等学校進学後、明治学院大学在学中に銭湯ペンキ絵師・中島盛夫氏に弟子入り。現在は独立し、銭湯のペンキ絵のほか、老人ホームの浴室や店舗など制作の場を広げている。現代美術展覧会・レビュー情報サイト「カロンズネット」元編集長。ペンキ絵制作に関する活動は、ブログ「銭湯ペンキ絵師見習い日記」(<http://mizu111.blog40.fc2.com/>)にて随時掲載。